

## 近藤 晃先生記念号によせて

近藤晃先生は、立教大学経済学部経済学科を卒業後、同大学院経済学研究科に進学し、1951年11月に本学経済学部副手に就任されました。以来、同助手を経て1956年経済学部専任講師、1959年経済学部助教授、1970年経済学部教授と昇格し、1994年3月に定年退職されるまで、実に42年4カ月の長きにわたって本学ならびに経済学部の発展のために努力され、学問の府としての本学の名声を大いに高められました。

先生は、経済学部において一般経済史及び欧州経済史の講義を担当され、他学部も含めて多数の学生の教育にあたられる一方、ゼミナール、大学院における研究指導を通じて、多くの研究者の育成に努めてこられました。また、この間立教大学経済学部経営学科長（1973年4月～75年3月）、同経済学部経済学科長（1979年4月～81年3月）、同大学院経済学研究科博士課程後期課程主任（1987年4月～89年3月）などを歴任され、経済学部及び大学院の発展のために尽力されました。

先生の研究業績は、学位論文「市場経済の史的分析」に収斂されていく多数の著作に集大成されていますが、それは次の2つの分野の業績からなっています。

第1は、「人頭税徴集記録」（1379年、1381年）を史料として、14世紀末葉のイングランド西部・中部諸州における自由な農村市場の生成・発展の歴史を実証的に解明された諸研究であります。「イギリス・マナー解体期における『雇傭労働力』の存在形態」（グロスターシャー）、「マナー体制解体期における農村市場の展開」（レスターシャー）、「14世紀末ウイルトシャーにおける『職業』の生成と展開」（ウイルトシャー）などの諸論文がこの分野の業績に位置付けられます。先生によれば、14世紀末期のイングランドでは、直接生産者である農民相互間に社会的分業が展開して単純な小商品生産が成立し、旧来の共同体に立脚する再生産機構とは異なる再生産機構（「局地的市場圏」）が創出され、資本制経済の歴史的起点をなしたのであります。

第2は、第1の分野の業績で明らかにされた「局地的市場圏」の生成・発展の過程と同時並行的に現われてくる「封建的・領主的貨幣経済」の内部構造を明らかにされた諸研究であります。「いわゆる『最盛期』にみるイギリス・マナーの流通機構」「13世紀イングランドにおける羊毛輸出貿易とその基盤」などの諸論文がこの分野の業績に含まれます。先生はこれらの研究によって、封建領主が直営地における農奴制的生産物の商品化を実現し、とりわけ都市市場・外国市場といった遠隔地商業と連結するときには、その流通過程を担当する前期的資本とともに、農奴主的支配の強化に帰結することを明確にされました。

以上の業績を通して明らかにされた「農民的貨幣経済」と「領主的貨幣経済」との対抗関係は、1381年の「大農民一揆」でその頂点に達し、前者の優位のうちに15世紀にはイングランド全域にわたって貨幣地代が成立し、民富の形成がその後の資本制経済の全面的展開を確保する

ことになります。先生は、こうして世界史上最初に資本主義の自生的形成をみたイングランドにおける封建制から資本制への移行過程の諸相のダイナミズムの構造を、独自の史料と方法を用いて明らかにされました。

以上のように、先生はイギリス経済史の研究の発展に大きな足跡を残してまいりましたが、その業績は学会の共有財産として受け継がれていくことと確信します。

なお、これらの業績以外にも、例えば最も初期の作品「信州製糸業における『マニファクチュア』の成立」は、日本資本主義論争に一石を投じ、学会においても高い評価が与えられています。また、最も近年の編著『近代化の構図』（文献出版）は、本学において経済史学を学んだ若い研究者とともに作られた論文集であり、先生が本学においていかに研究者の育成に努力されてきたかを示しています。

先生の学会での活躍もまた刮目に値します。社会経済史学会、土地制度史学会、経営史学会、日本西洋史学会、鉄道史学会、市場史研究会、イギリス中世史研究会などの国内の学会はもとより、イギリスの Economic History Society、及び The British Agricultural History Society にも所属し、諸学会において評議員などの役職を歴任してこられました。とりわけ、市場史研究会においては、市場史研究のいわば草分けとして後進の指導に大きな役割を果たしました。

このように先生は、わが国の経済史学界において目覚ましい活躍をされ、大学としての本学の権威を一層高めることに多大の貢献をされてきました。立教大学は、先生の学術上、教育上の功績の顕著なことにより、1994年7月、先生に名誉教授の称号を贈りました。

先生はいま定年退職の時期を迎えられましたが、経済学部発展に尽くしてこられました先生のご功績を永くとどめるために、本号を先生の記念号といたします。先生の今後のご健康とご活躍を祈念すると同時に、これまでと変わらぬご助力を本学と経済学部のために賜われますようお願いいたします。

1994年10月

経済学部長 大橋英五